

令和8年度「全国学力・学習状況調査」結果の概要について

今年度も「全国学力・学習状況調査」が、4月22日（水）に英語（聞く・読む・書く）と質問調査、4月23日（木）に国語と数学、5月1日（金）に英語（話す）について、中学3年生の全生徒を対象に全国で実施されました。今年度の「教科に関する調査」は、例年の国語・数学に加え、CBT方式により英語で実施されました。また、「質問調査」は、学習意欲や学習方法、学習環境等の状況について調査するものです。

本校3年生の結果とその概要についてお知らせします。

1 教科に関する調査について

	国語	数学	英語
本 校	全国平均と同程度、県平均よりやや高い	全国平均よりやや低く、県平均よりやや高い	全国平均よりやや低く、県平均と同程度
山 形 県	63	54	476
全 国	63.9	57.0	499

※国語・数学は平均正答率。英語は平均IRTスコア（基準スコア＝500）

【国語について】

「表現の工夫とその効果に関する思考」を問う問題では、極めて高い到達度を示しました。また、「文章の構成・段落相互の関係理解」を問う問題では、全国平均を上回り、文章全体の構造をとらえる読解力が定着していることを示しています。

【数学について】

全体として「データの活用」の分野で全国平均を大きく上回っています。具体的な場面やグラフなどのデータから必要な情報を読み取って推論・思考し、数学的に説明する力の定着を示しています。課題は、特に選択問題の誤答が多く、あいまいな理解のまま学習を進めることで、紛らわしい誤答選択肢を選んでしまう傾向があります。数学的な概念を正しく理解できるよう、具体例をあげながら授業を進めていきます。

【英語について】

技能領域「読むこと」においては、多くの問いで全国の正答率を大きく上回っています。特に、文と文の論理的なつながりを正確にとらえ、必要な情報を読み取る力が育っていることを示しています。知識の定着に比べ、活用力に課題が見られます。特に、自らの考えやその根拠を添えて話したり書いたりすることに難しさを感じています。今後は、授業の中でもアウトプットする場面を多く作り、改善していきます。

2 生徒質問調査について

「自分の学級では人と違う意見を言っても否定されないと思う」生徒の割合が高く、多様な意見を受容する学級風土については肯定的な意識を持っています。また、「自分には良いところがあると思う」生徒も全国平均を上回り、自己肯定感の高まりを感じます。

基本的な生活習慣（朝食を毎日食べる・同じ時間に就寝する）が身に付いている生徒が多く、ご家庭の協力のもと生活基盤が整っていることがうかがえます。また、家庭学習の時間については、全国平均並みの学習時間を確保していることが回答から伺えます。

3 全体について

調査の結果をさらに分析し、学校でも生徒とともにより良い授業を目指し授業改善を重ねてまいります。今年度、教職員の授業研究会における保護者参観を実施しますので、その様子もぜひご覧ください。また、個人票も配付されておりますので、ご家庭でも話題にいただき、今後の学習に役立ててほしいと思います。質問調査では、全国平均や県平均と比較し、多くの項目について望ましい回答の割合が高い状況にあり、気品ある一中生として成長していることが伺えます。今後ともご家庭と連携しながら教育活動を進めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。